

2020(令和2)年度 第1回 Salon De 大学コンソーシアム大阪 職員組織の未来を考える ～真の働き方改革～ 開催報告

日時: 2020(令和2)年9月25日(金) 18:00~19:30 *情報交換会 19:30~20:30

会場: オンライン(Zoomにて)

講師: 野田 稔氏(明治大学 専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授)

申込者数: 39名(会員15名 大学29名、会員外7名 大学7名、その他3名)

参加者数: 36名(会員13名 大学27名、会員外7名 大学7名、その他2名)

企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会 推進委員会

司会進行: 佐藤 浩輔氏

(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員/大阪体育大学 庶務部 研修支援担当)

閉会挨拶: 浅田 晋太郎氏

(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員長/学校法人 大阪女学院 常務理事)

1. 開催概要

大学職員を取り巻く環境は、日々刻々と変化している状況の中、一人ひとりの職員が個々に知識を身につけ、能力を高めるのはもちろんのこと、個々の力をいかに有機的に組み合わせ、「1+1=2」ではなく、「1+1=∞」として“チームの力”にするのが大きな課題となる。そこで、「働き方改革」を“異なる背景を持った多様な他者といかに共創し、成果を生み出していくか”という未来に向けた組織改革と位置づけ、コロナ禍により急速に変化し始めた働き方と With コロナ時代に求められる働き方とは何かを考える。

「働き方改革」は「成果の出し方改革」と唱える野田先生に、個々人を扱う人材開発と、個々人の力を組み合わせた組織開発の両面から、職員組織が高いパフォーマンスを発揮するための仕掛けについてご教示いただく。

2. 講演内容

- ・多くの人が恒常的な長時間労働によって生産性が上がらない状況にある。
そもそも「働き方改革」によって改善されるべきところ、実際は本腰が入っていない状況である。
＝「しょうがない状況」に陥っており、改革が表面的になっているのではないか。
- ・何のために「働き方改革」を進めるのか、本質的な目的が理解されていない。
「働き方改革」ではなく、「成果の出し方改革」(効率的に生産性を上げる働き方の改革)を推進すべき。
そのために目的の共有化が必要。
- ・SCSKの残業削減、業務の徹底した見直し、業務負担の分散など戦略的な社員の幸せや人間性の回復を目的とした働き方への改革に取り組む事例を紹介。
- ・創造生産性の向上には「休み方改革」が必要。創造生産性の向上のためにリフレッシュすることが非常に重要である。→新しい視点の発見に繋がる＝新しい価値の創造へ
- ・イノベーションは現場から生まれる。社会に「不」や「気楽」を発見し、それを解決するための(組み合わせの)発見こそがイノベーションである。
- ・「働きがい」とは、働きやすさ×やりがい(＝「ありがとう」と言われる新しい価値の創造)である。
- ・コロナ禍のいま、よく大変な時代と言われるが、「『大』きく『変』化する」時代であり、新たな常態へと枠組みが変化している。
- ・自分の頭で考え自分を変え、自らが変革の主体者になることが大切だが、まずは心理的安全性が担保されて初めて個々の能力が発揮できる。(人は、安全基地があるから遠くまで飛べる)

- ・組織のメンバーが大人として成熟することで業績があがる。
成熟した大人の行動＝周囲を助ける、誠実、スポーツマンシップ、思いやりと責任、オーナーシップ
- ・利他の心を持ち、得を積む生き方(「ありがとう」と言われる生き方)こそが、真の働き方改革に繋がる。

○サロンの様子



野田 稔 講師



司会：佐藤委員



閉会挨拶：浅田委員長

3. 質疑応答

事前に参加者から寄せられた質問を中心に行われた。

質問1：働き方改革を進める上で、若手ができることは何か。

⇒若手が徒党を組んで本気を出すと上層部は無視できなくなる。仲間を増やし、何をすべきか徹底的に議論したら良いが、外部の人や有識者の声を聞くようにすることが重要である。

質問2：職員組織の未来を考えるうえでどうすれば働き方とやりがいを持ってワークライフバランスを保ちながら幸せを感じられるか。

⇒あまりにもワークとライフのバランスを取ろうとすれば窮屈になってしまうことがある。ワーク、ライフにソーシャルも加え、その三つを統合するような生き方を目指すと決め、その入口として「ありがとう」を集めるにはどうすればよいかを考えることが重要である。

野田先生の講演を受け、大学職員が働き方改革を進める上で、何のために改革を進めるのか本質的な目的を明確にして共有化すること、また「できない」から「しない」理由を集めることをやめ、「やる」と信念を持ち進めることの重要性を認識する機会となった。

4. 参加者アンケート結果

「参加者アンケート」に掲載。

5. 情報交換会

サロン終了後、サロンの参加者、講師によるオンライン情報交換会を開催。佐藤委員の司会のもと、小グループに分かれ、グループごとに情報共有や意見交換を行い、参加者間のネットワーク構築の場として活用された。

以上